

死者は
もう十分だ
テロにも
軍事報復にも
反対する！

暁和中学校

No. 80

1年6組学級通信

夢工房

2001.10.10

テロは許せない。

民間人を巻き込む無差別テロは許せない。

それは極悪非道の犯罪である。

9月11日のテロは世界の市民が犠牲になっている。

日本人もだ。

このような許されないテロを計画し、準備し、実行した者は法の手続きにしたがって、厳正に処罰されなければならない。

だがしかし、軍事報復は問題を解決させるのだろうか？

これはお互いに、憎しみを深めるだけではないのか？

憎しみ合いの連鎖でしかないのではないのか？

テロの背後には宗教の問題や、経済の問題や、社会の問題が横たわっている。

それらを解決しなければ、再びテロを生む。

そう、仇（かたき）討ちの仇討ちである。

たとえ、ビン・ラディンとかいう男を捕まえたとしても、第2のビン・ラディンが現れるのはまちがいない。

テロを生み出すこのような地球上の人間の社会の問題を解決しなければ、テロなどなくなる。

問題は複雑である。

今回の事件でいろいろなことを考えさせられた。いろいろだ。

真っ先に真珠湾攻撃や特攻隊のたどろえが出てきたときには思った。おい、日本人と一緒にしてくれるなど。確かに奇襲はやった。自爆もやった。だけど、相手は戦艦や空母だぞ。民間人がたくさん乗っている飛行機を使って、民間人が数千人以上も働いているビルに突っ込むなんてことを日本人はやってないぞ。確かに戦争をすること自体が罪かもしれない。しかし、こんな極悪非道の犯罪者集団と一緒にしてくれるな、と思った。こんなのと一緒にされて、もう少し日本人よ怒れ！と思った。

それから宗教の難しさも思った。どの宗教の教祖も命は大切にせよと言っていたはずだ。自分の宗教のためには人を殺してもかまわないなどと言っていないはずだ。（言った教祖も中にはいて、地下鉄でサリンなどまかせたようだが……）

難しい宗教や、経済の問題は抜きにしても、命の大切さについては君たちも考えてほしい。

それにしても、自爆テロをやった者たちは、なんと命を軽いものと見ていたことだろうか。彼ら自身の命はあまりに軽かったのだろう。自分の国にいても、飢えとか内紛とか戦争とかで明日をも分からぬ命だったのかも知れない。死んだって生命保険がおりのわけでもない。戦争で死ぬのも、ビルに突っ込んで死ぬのも同じだったのかも知れない。だからといって、他の人々をまきぞえにしているなんてことがあるわけがない。他の人々の命を軽く見ていいはずがない。

そこに、社会や経済の問題があるのだろう。

このような世界の国々の社会や経済の状況を知ることもまず我々がしなくてはならないことだろう。

どうしてテロが生み出されるのか、その背景を知らずして、そしてその背景を解決せずして、テロがなくなるはずがない。

毎日飢えることなくご飯が食べられて、働けばそれなりの報いがある、豊かで充実した人間関係がある、自己実現ができるならば、人はテロになど走らない。

この点、日本の若者、君たちは危ないかも？何しろ、毎日ご飯を山ほど残して残飯作っても、それがぜいたくすぎる幸せだなんて気づかず、自己実現ができず、自分は不幸な人間だと思ってるのだから。なんだか関係ない話になってしまった。

とにかく暴力で対決しても問題は解決しないだろう。原因の追及と、その原因を取り除かなければ、殺人の繰り返しだ。

だから、テロにも、報復戦争にも反対する。

テロと、それを生み出す背景をなくしていくべきだ。

そして、それに対して我々日本人ができることも考えていくべきだ。